



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2013年10月8日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



*複利年率 +12.43%

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

組入れファンドの内訳 (組入比率は9/30付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標投資比率	目標比
さわかみF	日本	12.0%	12%	±0.0%
キャピタルF	欧米	15.5%	18%	-2.5%
ハリスF	欧米	19.0%	20%	-1.0%
コムジェストF	新興国	39.0%	50%	-11.0%
キャッシュ	—	14.5%	—	—

小数点第2位を四捨五入

ファンドマネージャー コメント

ユニオンファンドの運用状況

ユニオンファンドは2013年9月末に5期目の決算を迎えました。

そこで、これまでの運用状況を振り返ってみました。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

図1 インデックスの推移(2008.10.20=10,000)

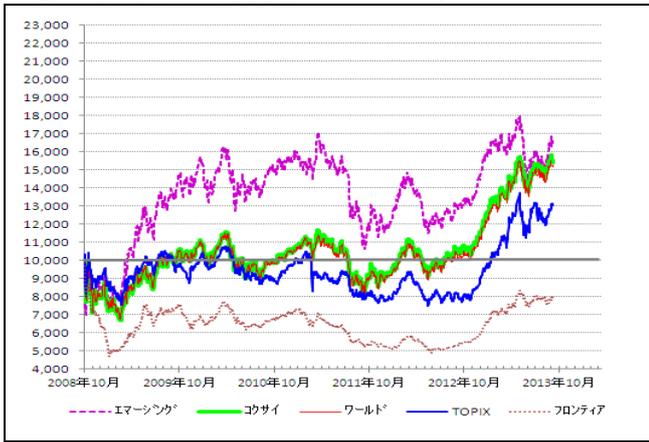


図2 各組入ファンドの基準価額推移(2008.10.20=10,000)

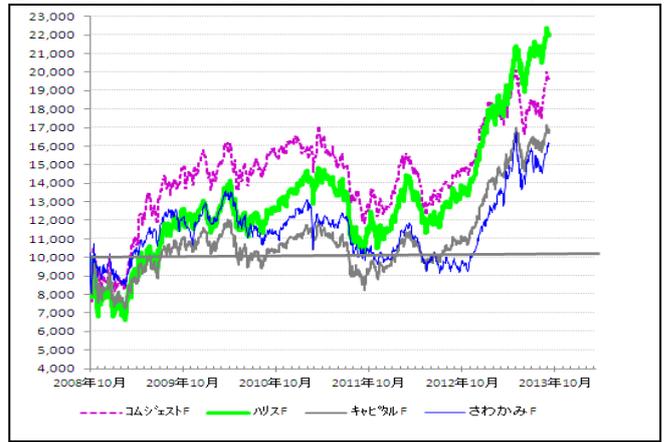


図1はユニオンファンド設定来のインデックス(市場平均値)の推移です。

これに対し、ユニオンファンドが組入れているファンドの基準価額推移は図2の通りです。

図1に比べ図2の勢いが強い状況が続いています。

これは組入れファンドがインデックスを凌駕していることを示しています。

インデックスと比較した相対パフォーマンスをグラフ化したものが図3です。

4ファンドともインデックスを2桁以上凌駕していますが、「ハリスF」が最近飛び抜けています。

4ファンドを合成したものがユニオンファンドの基準価額です。

ところで、4ファンドを合成したユニオンファンドと的確に比較するインデックスが市場には存在しません。

そこで弊社では次の様な「全世界疑似ベンチマーク」を作成し、ユニオンファンドと比較しています。

[全世界疑似 BM(ベンチマーク)] について

市場	インデックス	株式時価総額比率
日本	TOPIX	7%
先進国	MSCI コクサイ	68%
新興国	MSCI エマーシング	24%
途上国	MSCI フロンティア	1%
全世界	全世界疑似 BM	☆

☆上記4インデックスを株式時価総額で加重平均

全世界疑似 BM とユニオンファンドを比較したものが図4です。

ユニオンファンド設定時の2008年10月から約1年間、ユニオンファンドは市場を15%以上凌駕しましたが、その後は15~20%の水準で揉み合い、最近では20%を抜け出す動きとなっています。

図3 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)

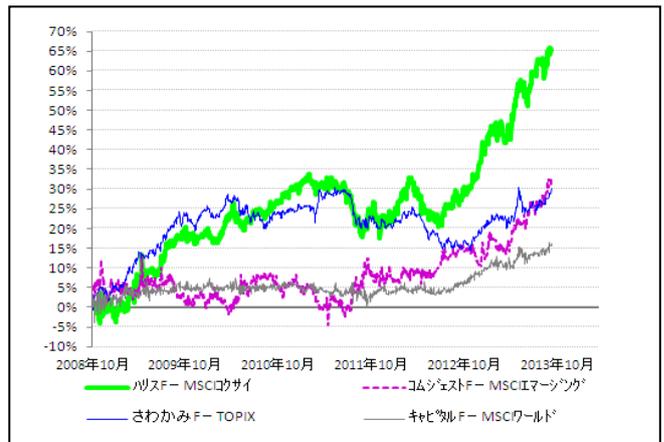
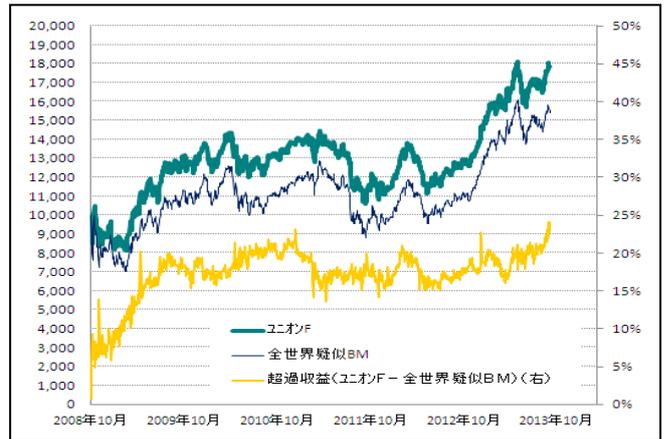


図4 全世界疑似BMとの比較



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

4ファンドの組入比率の推移は図5の通りです。
 図6の「目標投資比率」に沿った組入れとなっています。

図5 組入ファンド別「組入比率」推移

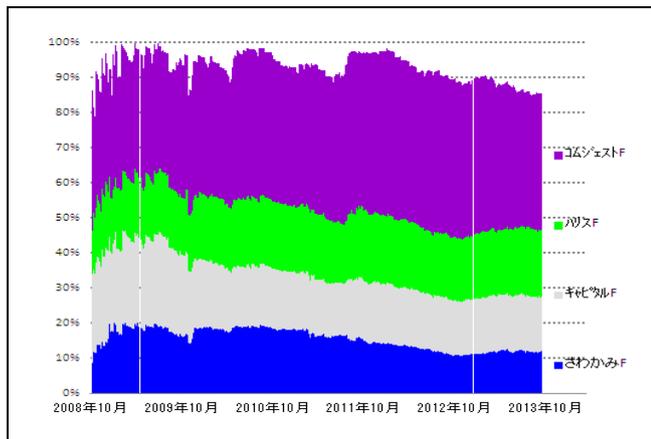


図6 世界「株式時価総額シェア」とユニオンファンド「目標投資比率」

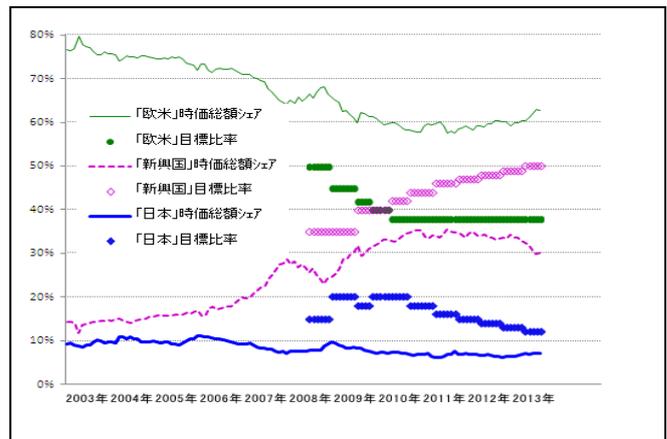


図7は図5の組入比率を勘案した4ファンドの寄与度推移です。

①コムジエスF	2011年のギリシャ第2次支援前後までは堅調。その後軟調。最近底打ち。
②ハリスF	順調にインデックスを凌駕。特に直近1年超の貢献度が大きい。
③キャピタルF	安定的な貢献。先進国優位の環境もあり2年前よりジリ高。
④さわかみF	超円高を受け昨年まで低調な貢献度。アベノミクスで一転反発。

図7 組入ファンドの基準価額への「寄与度」推移(概算)

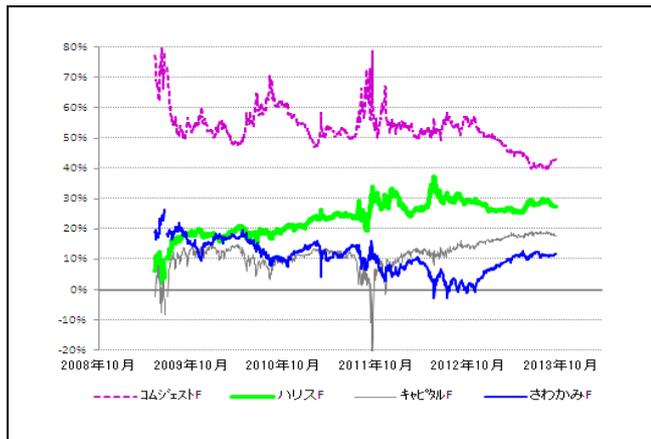


図8 ユニオンファンドの「組入比率」推移

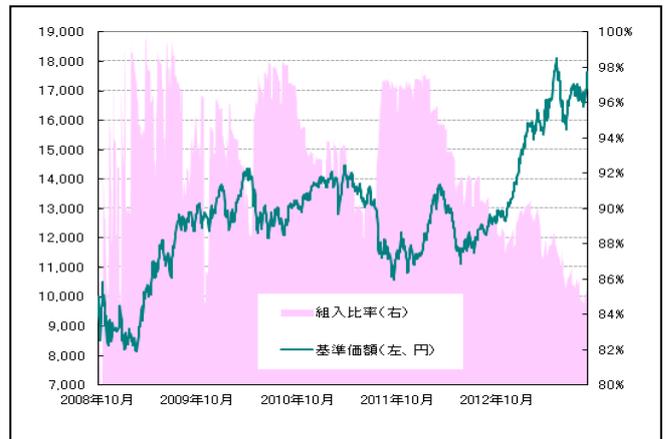


図1、3、4、6の出所: MSCI、東証、国際取引所連合

図8は組入比率推移です。

◇2012年夏までは90~98%の水準で推移させました。

◇最近1年間は株価上昇に割高感があると考え、組入水準を落としています。

・・・「組入水準を落とす＝キャッシュ比率・額を増やす」⇒ 今後の下落局面での買い増しに備えています。

なお、ユニオンファンド設定来からこれまでの間、「組入水準を落とす＝キャッシュ比率・額を増やす」にあたっては、組入れファンドを売却したことは一度もなく、新規資金の増加によって実現しています。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する
ファンドの中から実績を挙げた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアを基準に地域別「目標投資比率」を決め、それに基づいて投資しています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウェイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「新興国」 : 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 9月の世界の株式市場は軟調に推移した8月とは逆に月初より右肩上がりの上昇となりました。

①シリア問題のソフトランディング、②米国「超金融緩和」の継続、③それに伴う米国金利の低下などが好材料でした。東京市場は五輪決定・財政拡大などが押し上げ材料となりました。

■ 9月の基準価額推移・・・月初から概ね一本調子の値上がりとなり、月末は17,852円(前月末比+8.1%)で終了しました。

■ 9月も新規組入れ(買い増し)を見送りましたが、一部資金流出や基準価額上昇から、月末の組入比率は「85.5%」(前月比+0.9%)となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

・9月は順調な展開でしたが、引き続き各国は種々のリスクを抱えています。

・各国の主なリスクは下記の通りです。

米 国:今後の「超金融緩和の縮小」による金利上昇、「財政の縮小」
欧 州:南欧債務問題の再燃
日 本:アベノミクスへの不信認(賃金低迷下での物価上昇)
中 国:景気減速下での不動産価格高騰、地方政府債務問題の顕在化
新興国:先進国資金の流出・通貨安による利上げ・景気後退
中 東:エジプト・シリア問題の継続

・世界の株式市場は昨年6月から今年の5月まで1年間の上昇を続け、引き続き高値圏にあります。

一方、年末の欧米決算期をにらみ利益確定売りが出易い季節となってきました。上記リスクに敏感な展開を予想しています。

● 目標組入比率

現在の「目標組入比率:80~100%」を維持します。

株価の大幅下落局面では実際の組入れ比率を引き上げる方針です。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

・・・日本:12%、欧米:38%、新興国:50%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標投資比率

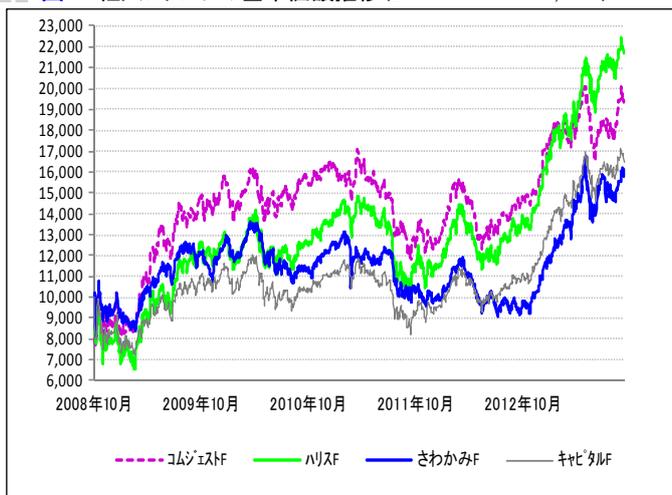
現在の「ファンド別目標投資比率」を維持します。

・・・「さわかみF」:12%、「キャピタルF」:18%、「ハリスF」:20%、「コムジェストF」:50%

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

4ファンドとも値上がりし、最高値レベルへ。
9月1ヵ月間の騰落率は次の通り
…「ハリスF: +7.2%」、「コムジェストF: +12.6%」
「キャピタルF: +5.7%」、「さわかみF: +9.8%」

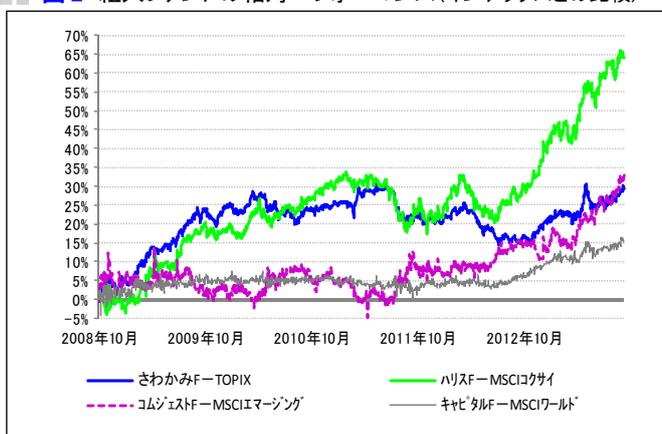
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」…設定来 30%凌駕
「ハリスF」…概ね 65%凌駕
「キャピタルF」…概ね 15%程度凌駕
「コムジェストF」…約 32%凌駕

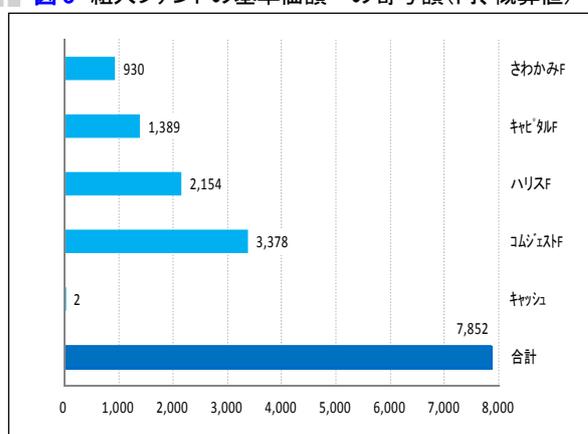
>> 図3 寄与額

9月末の基準価額が17,852円となっていることから、7,852円の評価益に。月末時点の寄与額内訳は第3図の通り。組入れ比率を加味した寄与度推移では「コムジェストF」の貢献度が底打ち。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

「時価総額シェア」…

新興国: 長期的に上昇基調、最近下落から底打ち

欧米: 低下基調、最近上昇が一服

日本: 低下基調から最近回復

「地域別目標投資比率」…

日本: 12% (シェア比+ 5%)

欧米: 38% (シェア比▲24%)

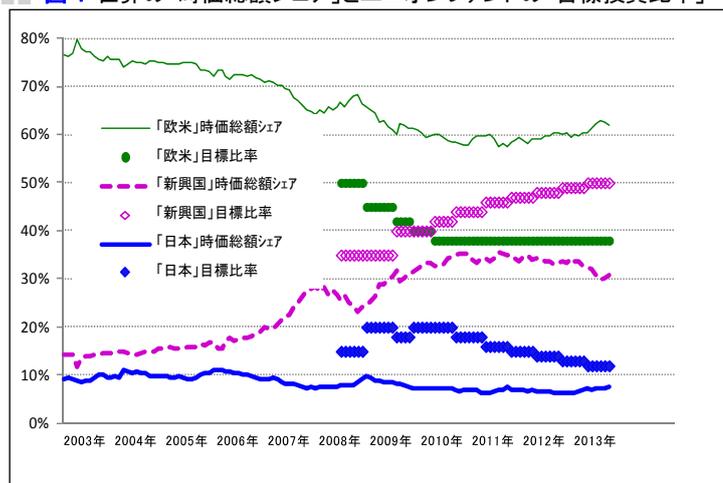
新興国: 50% (シェア比+19%)



運用部長 (ファンドマネージャー)

坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所) 「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

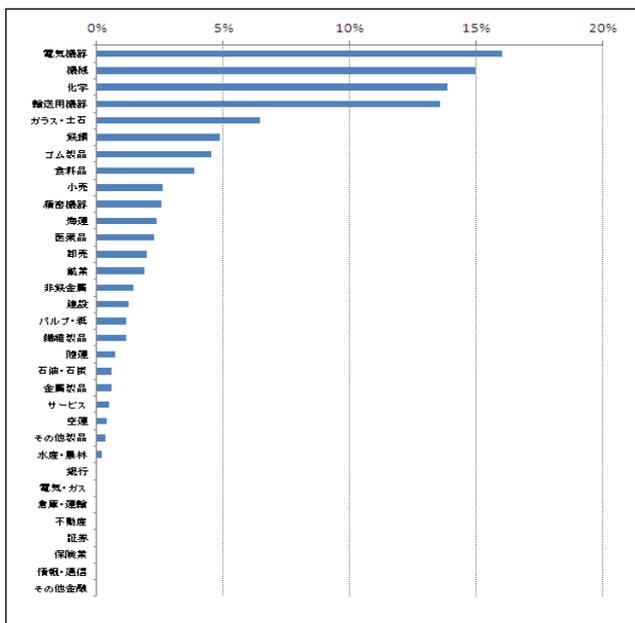
さわかみF（さわかみファンド）

株式組入上位10銘柄等

2013年9月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	トヨタ自動車	5.4%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
2	ブリヂストン	4.4%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3	三菱重工	2.6%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
4	花王	2.4%	日本	化学	トイレタリー首位
5	デンソー	2.4%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
6	商船三井	2.3%	日本	海運	海運世界大手
7	TOTO	2.1%	日本	ガラス・土石	衛生陶器トップ
8	ダイキン	2.0%	日本	機械	エアコン世界首位
9	新日鐵住金	2.0%	日本	鉄鋼	粗鋼生産国内首位
10	日本特殊陶業	2.0%	日本	ガラス・土石	プラグ・センサー世界首位
上位10銘柄		27.4%			
その他126銘柄		69.0%			
キャッシュ		3.6%			

業種別構成比



業種：東証33業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

◆組入銘柄数は約140（ピークの半分以下）。

業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。

◆具体的には、

- (1) 「電気機器」「機械」「化学」「輸送用機器」「ガラス・土石」「鉄鋼」「ゴム」など“ものづくり”，“輸出型”企業の比率大。
- (2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」「公益」などの比率を抑え、「食料品」「小売」「医薬品」など“生活関連”にシフト。

◆株価が上昇した9月は“ものづくり”，“輸出型”企業を中心に約40銘柄の全部または一部を売り上がり、買付は数銘柄。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

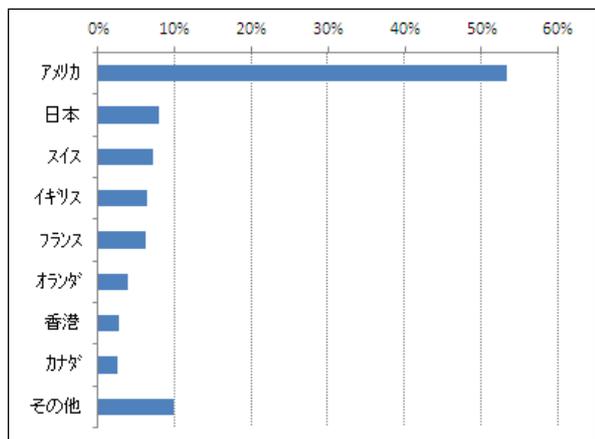
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2013 年 8 月末現在

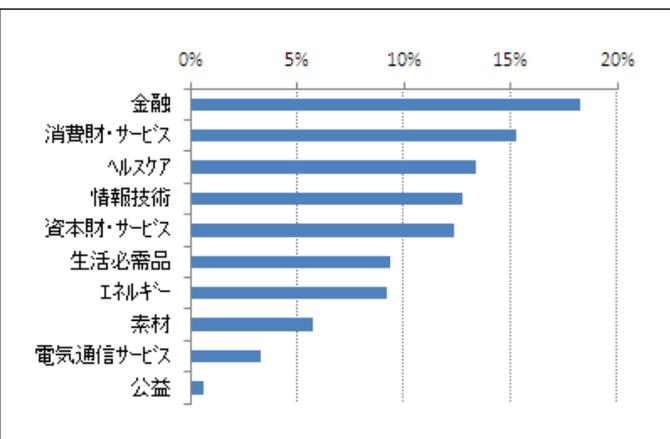
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Gilead Sciences	4.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
2	Bristol-Myers Squibb	2.2%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
3	Goldman Sachs	2.1%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行
4	Roche	1.9%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
5	Danaher	1.8%	アメリカ	資本財・サービス	コングロメイト
6	Google	1.7%	アメリカ	情報技術	ネット検索世界一
7	Pernod Ricard	1.7%	フランス	生活必需品	洋酒大手
8	Halliburton	1.6%	アメリカ	エネルギー	資源サービスの多国籍企業
9	Nestlé	1.5%	スイス	生活必需品	世界最大の食品・飲料
10	Eaton	1.4%	アメリカ	資本財・サービス	総合産業機器メーカー
上位 10 銘柄		20.3%			
その他 148 銘柄		76.3%			
キャッシュ		3.4%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (150 銘柄程度)。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 半年前に比べ、「情報技術」「消費財」「資本財」が増加し、景気敏感セクターの「エネルギー」「素材」「金融」が減少。
「金融」が引き続き組入トップ (19%) でパフォーマンスへの貢献大。
- ◆ 組入上位 10 銘柄は大きな変化なし。
「ヘルスケア (バイオ)」が引き続き上位を占める。

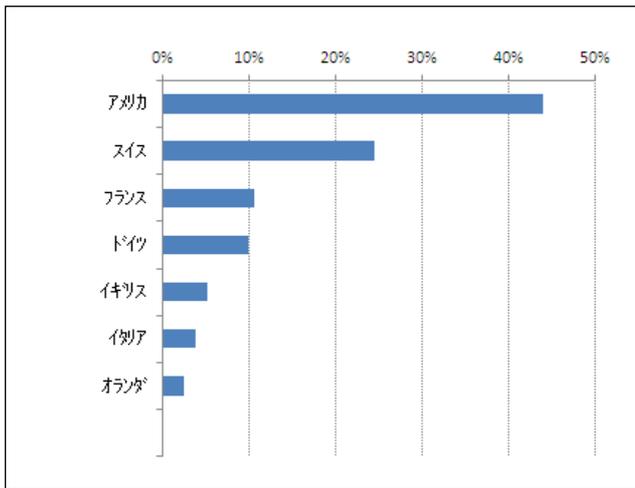
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書 (交付目論見書) の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2013 年 8 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	JULIUS BAER	4.7%	スイス	各種金融	プライベートバンク
2	CREDIT SUISSE	4.4%	スイス	各種金融	金融大手
3	INTEL	4.2%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
4	GENERAL MOTORS	3.8%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグスリーの一角
5	DAIMLER	3.8%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
6	BNP PARIBAS	3.8%	フランス	銀行	金融大手
7	ALLIANZ	3.8%	ドイツ	保険	総合保険大手
8	FIAT INDUSTRIAL	3.7%	イタリア	資本財	農業・建設機械
9	WELLS FARGO	3.5%	アメリカ	銀行	金融大手
10	APPLIED MATERIALS	3.5%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体製造装置メーカー
上位 10 銘柄		39.2%			
その他 26 銘柄		57.9%			
キャッシュ		2.9%			

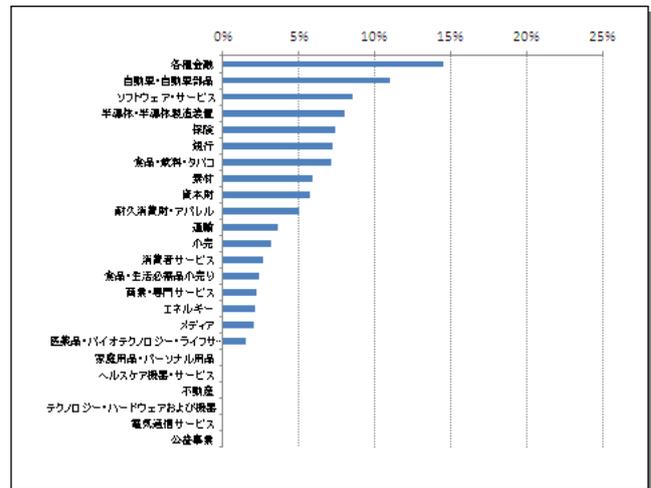
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2013 年 9 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除きの世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター (組入比率: 約 29%)。業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高め銘柄選択効果を効かせている。今回の上昇局面では「金融」セクターの貢献度が大きい。
- ◆ それ以外では、景気敏感セクターの「自動車関連」「ソフトウェア」「半導体」や割安な「食品」などのウェイトを高めている。
- ◆ 目標圏に到達した銘柄の利食い・割安株の買い付けを活発に行っているが、最近では割高となった「小売」「資本財」などを売却し、割安な「自動車関連」「アパレル」「食品」などに入れ替え。

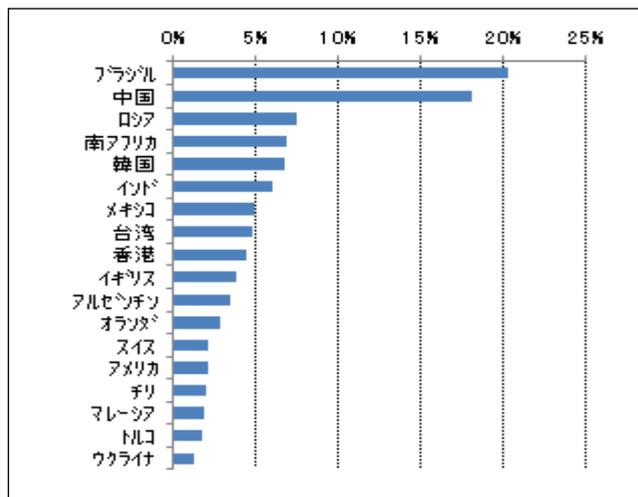
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2013 年 9 月末現在

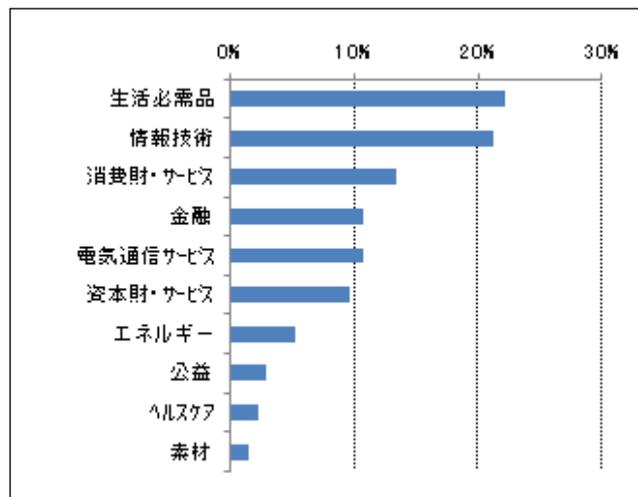
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	4.5%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	CHINA MOBILE	4.2%	中国	電気通信サービス	携帯電話
3	BAIDU	4.0%	中国	情報技術	ネット検索エンジン
4	NATURA COSMETICOS	3.6%	ブラジル	生活必需品	化粧品
5	NAVER	3.3%	韓国	情報技術	「LINE」運営
6	TENARIS	3.3%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管
7	YANDEX	3.0%	ロシア	情報技術	ネット検索エンジン
8	WALMART DE MEXICO	2.9%	メキシコ	生活必需品	スーパー
9	CIELO	2.9%	ブラジル	情報技術	クレジットカード決済
10	CHINA LIFE	2.9%	中国	金融	生保
上位 10 銘柄		34.6%			
その他 31 銘柄		61.8%			
キャッシュ		3.6%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 新興国の割に 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆ 財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆ 高成長新興国の企業を中心としたポートフォリオ。
- ◆ 新興国市場の主要セクターは「資源・エネルギー」や「金融関連」に大きく偏っているが (BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)、当ファンドは「生活必需品」「通信関連」などの安定成長セクターに高ウェイト (資源・金融は 1~2 割程度)。このため新興国市場が市況高 (資源・原油高) で上昇する場合は追従できないことが多い。
しかし市況の下落局面では当ファンドは下げ渋ることが多く、長期的な相対パフォーマンスは良好。
- ◆ 最近の動きでは、「生活必需品」「素材」「資本財」を引き下げ、割安になった「情報技術」や「消費財」を引き上げ。IT 関連 (情報技術、ネット検索エンジン、通信サービス) などが組入上位に 6 銘柄。最近のパフォーマンス改善に貢献。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託の受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書 (交付目録見書) の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

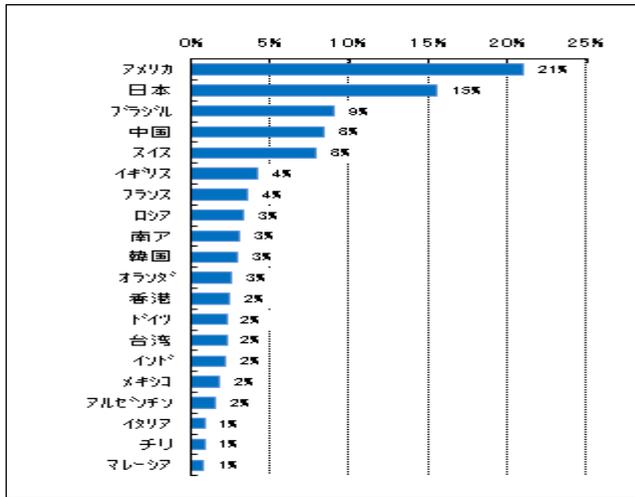
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2013 年 8 月末現在

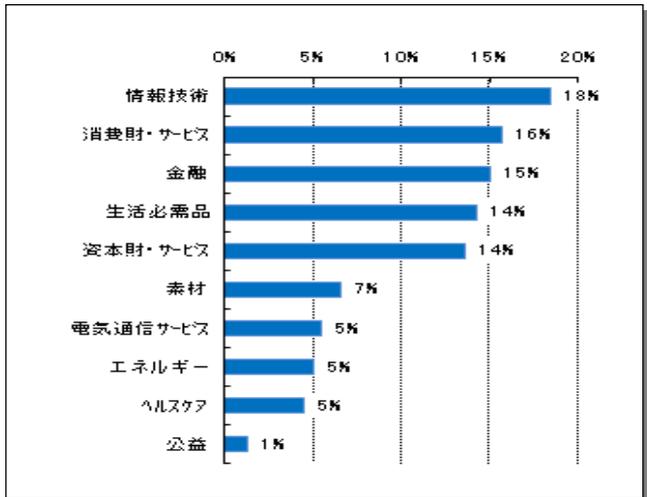
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.1%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	CHINA MOBILE	1.9%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	BAIDU	1.7%	中国	情報技術	ネット検索エンジン	コムジェストF
4	TENARIS	1.5%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管	コムジェストF
5	NATURA COSMETICOS	1.5%	ブラジル	生活必需品	化粧品	コムジェストF
6	PING AN INSURANCE	1.4%	中国	金融	総合保険	コムジェストF
7	SAMSUNG LIFE	1.4%	韓国	金融	生保	コムジェストF
8	YANDEX	1.3%	ロシア	情報技術	ネット検索エンジン	コムジェストF
9	NAVER	1.3%	韓国	情報技術	「LINE」運営	コムジェストF
10	TENCENT	1.3%	中国	情報技術	ネット・プロバイダー	コムジェストF
11	JULIUS BAER	1.1%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
12	CREDIT SUISSE	1.0%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
13	INTEL	1.0%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
14	GENERAL MOTORS	0.9%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグスリーの一角	ハリスF
15	DAIMLER	0.9%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手	ハリスF
16	BNP PARIBAS	0.9%	フランス	銀行	金融大手	ハリスF
17	ALLIANZ	0.9%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
18	FIAT INDUSTRIAL	0.8%	イタリア	資本財	農業・建設機械	ハリスF
19	Gilead Sciences	0.8%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品ハイイ	キャピタルF
20	トヨタ自動車	0.8%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
21	WELLS FARGO	0.8%	アメリカ	銀行	金融大手	ハリスF
22	APPLIED MATERIALS	0.8%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体製造装置メーカー	ハリスF
23	ブリヂストン	0.6%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
24	Bristol-Myers Squibb	0.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品ハイイ	キャピタルF
25	三菱重工	0.4%	日本	機械	世界的総合重機メーカー	さわかみF
26	Goldman Sachs	0.4%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行	キャピタルF
27	Roche	0.4%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手	キャピタルF
28	デンソー	0.4%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー	さわかみF
29	花王	0.3%	日本	化学	トイレット紙首位	さわかみF
30	Danaher	0.3%	アメリカ	資本財・サービス	コングロマリット	キャピタルF
上位 30 銘柄		29.2%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
その他 342 銘柄		55.4%				
キャッシュ		15.4%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 372、投資国数: 23 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: アメリカが 1 位で 21%、日本が 2 位で 15%、3 位以下はブラジルの 9% など新興国が続く。
主要新興国ではブラジル・中国・ロシア・南ア・インド・メキシコの順。
- ☆業種別構成比: 「情報技術」「消費財」「金融」「生活必需品」「資本財」の上位 5 業種で約 8 割を占める。
最近 6 カ月間の業種別動向: 割安な「情報技術」「資本財」にシフト。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

3つのアンケート調査結果から観える「老後生活不安」の実態



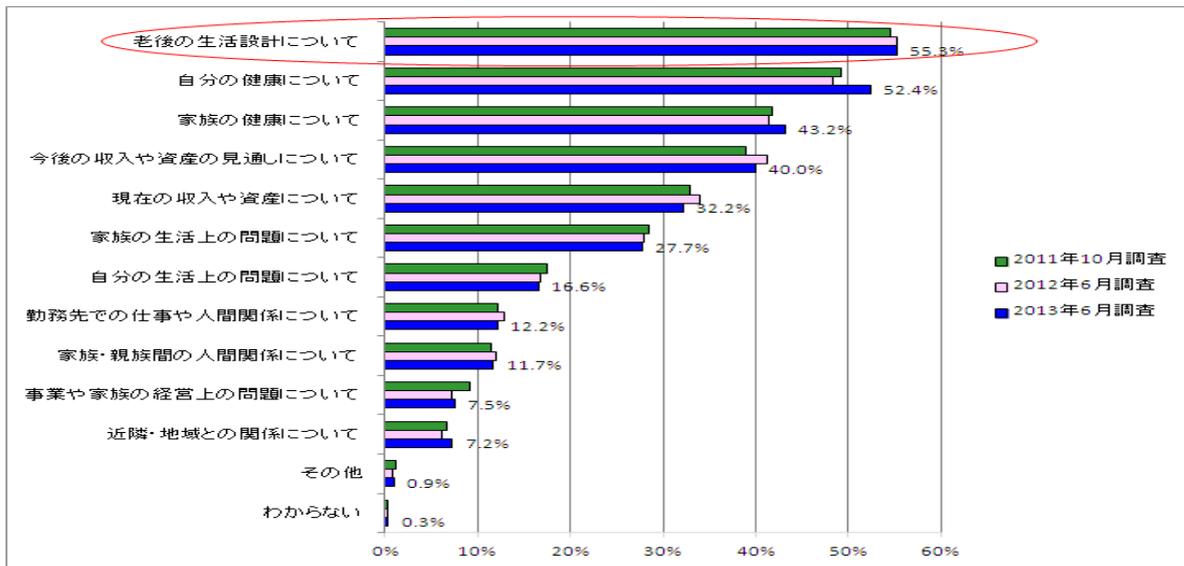
ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学

こんにちは。ユニオン投信の清水です。

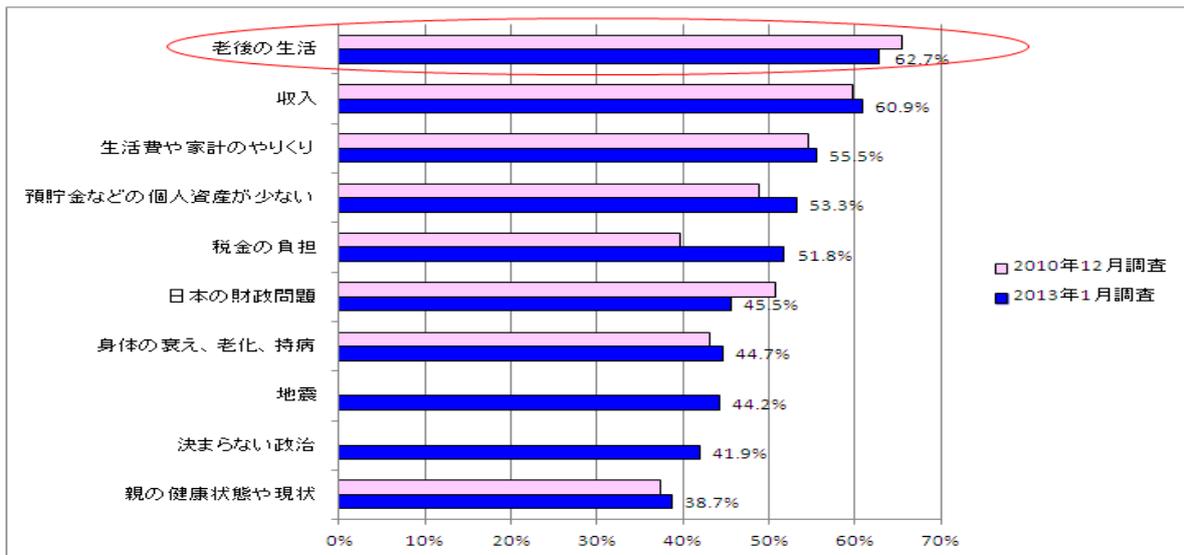
今回は、3つのアンケート調査結果から観える『老後生活不安』の実態について述べさせていただきます。

最初に3つのアンケート調査結果を紹介します。 ※いずれも複数回答

【① 内閣府調査 国民生活に関する世論調査結果（直近3回分）】…悩みや不安の内容

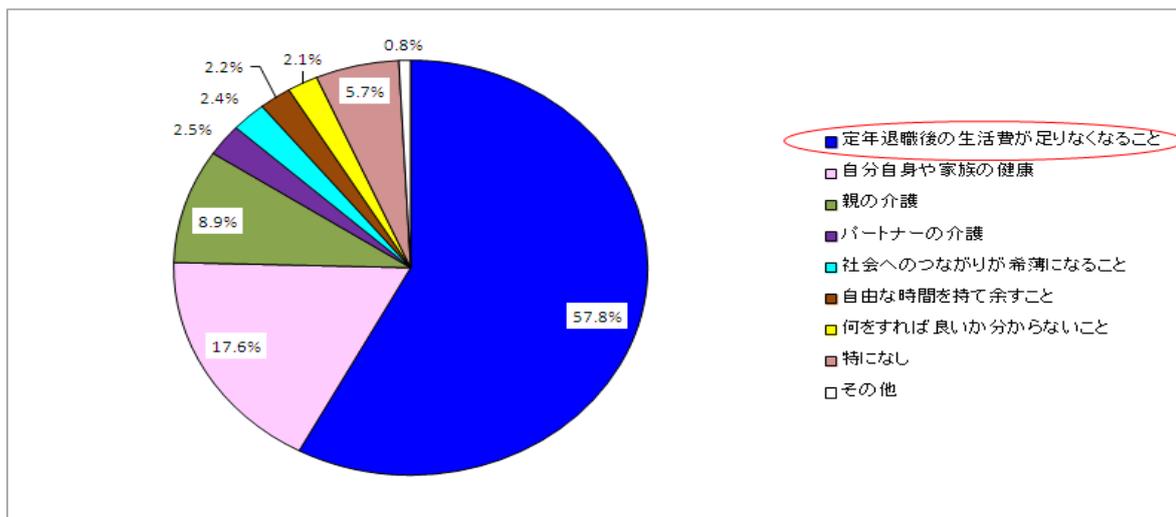


【② 連合調査 理想の日本像に関する意識調査結果（直近2回分）】…自身を不安にさせているもの



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見直し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

・・・退職後の生活で心配な点



※上記③については出所である「不安なのに準備できない サラリーマン1万人アンケート:4割が“老後難民”予備軍」という2010年4月発行の調査・レポートを是非お読みいただきたいと思ひます。非常に有用であり示唆に富むアンケート調査結果です。

URL : <http://www.retirement.fidelity.co.jp/library/report.html>

3つのアンケートは調査対象者や調査時期などは若干異なりますが、いずれも共通点があります。

それは、悩みや不安の第一位が「老後生活不安」であることです。

私は、本来であれば「自分の健康」や「家族の健康(介護含む)」が第一位であるのが普通だと感じます。

ところが、3つのアンケートが示す通り日本人のほとんどが『老後生活不安』を抱えています。

「少子高齢化」「社会保障費の増大」「公的年金・企業年金(除く確定拠出年金)制度の脆弱性や不信心」などが要因として考えられます。この“不安”は放っておくと現実化してしまう可能性が高いように思ひます。

なぜなら、“不安”は他力本願(ex 公的年金や企業年金制度の維持や充実、誰かが何とかしてくれる)では解決できないからです。そして、仮に“不安”が現実化してしまった場合、その時になって不平・不安を言っても解決には繋がりません。

逆に“不安”を“危機感”に変え“行動”に移せば、今から『老後生活不安』への備えは十分に可能であると考えます。

一転、話が変わるかもしれませんが、社会の様々な問題(環境汚染、エネルギー・食糧・水不足、社会保障不安、格差拡大など)の解決に向けて行動しているのが「真の企業や事業(NPO等も含む)」であると考えます。

企業や事業の存在意義・存在価値は「社会的問題の解決」にあります。

もちろん、利便性を向上させたり効率化を図ることも企業や事業の大切な使命ですが、やはり社会的問題の解決に向かって行動し続けることの方が優先順位は高いと思ひます。

ユニオン投信(株)・ユニオンファンドは、日本の少子・高齢化による社会保障不安・危機や、今後のインフレ(物価上昇)や増税・社会保障費負担増という社会的問題を直視し、この問題を「お客様・株主・弊社」の3者が一体になって解決しようという志で生まれ、行動し続けています。

日本人全体が抱える社会的問題を解決できるのは、私たち自身(=より多くの仲間)の志(情熱)と行動に他なりません。

平成25年10月4日記

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続き・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 純資産総額に年0.84%（税抜き 年0.8%）の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年1.9%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NISA（少額投資非課税制度）について

来年（2014年）1月から“少額投資非課税制度”（NISA）がスタート致します。

弊社では以下の理由により今回のNISA制度の導入を見送らせていただくことに決定致しました。従いまして、「ユニオンファンド」はNISA制度の対象とはなりませんので、何卒、ご理解、ご了承下さいませますようお願い申し上げます。

当制度を利用することにより、年間100万円までの投資における売買益、配当金、分配金等に対して非課税扱いになることは投資家にとって大きな魅力です。しかし、弊社がNISA制度を導入しない理由と致しましては、

- 当制度は10年間という“期間が限定”されていること
- 非課税のメリットを享受するためには、基本的に5年以内に“売却（解約）”する必要があること（ロールオーバー制度を利用することで最長10年間継続することが出来ます）
- すべての金融機関を通じて、一人一口座に限定されていることなどが主な理由です。

この様に、当制度は“期間が限定”されていることと、非課税メリットを享受するためには“解約が必要”という点におきまして、弊社がお客様に推奨しております“長期投資”による「資産形成」を行うこととは、馴染みにくい制度になっていると考えます。

「ユニオンファンド」での資産運用は、10年、20年、或いは30年後のための「資産形成」を長期に継続して取り組んでいただくことを主眼としています。従いまして、ファンドの取り崩しは、老後生活時の不足分を“必要な時”に“必要な額”をご解約いただき、生活費に補充される場合などを前提に考えています。

弊社が実践している「長期投資」とは別に、お客様が資産の一部を比較的短い期間で投資されることをお考えでしたら、株式売買や投資信託等の金融商品を幅広く取り扱っている証券会社などでNISA口座をご利用され、期間内に売買を行い“非課税のメリット”を享受されることをお勧め致します。

なお、今回のNISA制度は「期間限定」となっておりますが、今後は徐々に制度の改定が行われると思えます。将来的に非課税の期間が「恒久的」になる場合など、“長期投資”にメリットが生じる制度となった場合には、弊社でも積極的に“導入”を検討して参りたいと考えている次第でございます。

以上

ユニオン投信株式会社

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。